

ビヨルク Björk

Newsletter July 2024

vol. 161



CONTENTS

ペールエリック・ヘーグベリ駐日スウェーデン大使特別講演会

寄稿：なぜスウェーデンの若者は余裕があり自由なのか

SCF レポート：第 39 回夏至祭

他



パールエリック・ヘーグベリ駐日スウェーデン大使 特別講演会

「スウェーデンと世界」

ー 変化する国際的な安全保障情勢への課題と機会

2024年5月27日(月) 15:30-16:50 札幌プリンスホテル国際館パミール

主催 一般財団法人スウェーデン交流センター／後援 札幌圏大学国際交流フォーラム

◆当財団の顧問にご就任いただいている、パールエリック・ヘーグベリ駐日スウェーデン大使による特別講演会を開催しました。(言語は英語／逐次通訳は川内裕子氏)。会場には定員を超える70名の参加者が集まり、講演後には活発な質疑応答も行われました。駐日スウェーデン大使館のご協力により、ご講演内容を掲載します。(誌面の都合により、一部編集しました。)



こ んにちは。パールエリックです。本日はこのような会にお招きい

ただき、ありがとうございます。今日は、ヨーロッパの、北欧の、そして日本と世界にとっての、変化する国際情勢と安全保障情勢について、スウェーデンの視点から見ていきたいと思っています。

私 たちは困難な時代にいます。パンデミックがやっと収束したところ

です。世界的な気候変動の影響が増えています。生物多様性や、地球をとりまく海洋にも危機が及んでいます。

しかし、すばらしい時代でもあります。

す。私がウプサラの大学生だった80年代の末、その当時のコンピューターは、レポートを6ページほど書いたらフロッピーディスクを交換しなければなりませんでした。あるいは私が若い外交官としてナミビアにいた頃のインターネットは、モデムをオンにしたらずービーを沸かし、シャワーを浴びたりして、20分後に私が戻ってくる頃には、うまくいけばスウェーデンの新聞の1ページ目が見られるようになっていて、という時代でした。今は2秒とかかりませんね。

パンデミックのとても短い期間にワクチンが開発されました。病気との戦いは目覚ましい進歩を遂げています。人工知能は我々に多くのツールをもたらしています。スウェーデンでは化石燃料に頼らない鉄鋼が開発されていますし、バッテリーの技術も日々進歩しています。

しかしこの2年というものの、信じられないようなことが起きていて、私たちが築いてきた世界秩序が脅かされています。5年や10年前には、ロシアが実際に隣国へ攻め込むとは誰が想像できたでしょうか。この35〜40年を見ていくと、ソビエト連邦で改革が起って崩壊し、ベルリンの壁が壊され、今思えば、世界は今後も平和で民主的であると私たちはのんびり考えていたのです。しかし、これは誤りだったのでしょうか。

スウェーデンがNATOに加盟して2か月が経ちました。世界で最も成功している防衛と平和のための連合です。そして、これはソ連崩壊以降、ヨーロッパにおける最も重要な安全保障上の展開であると結論づけられます。

ここで、スウェーデン人と、国としてのスウェーデンはどこからきて、どのように建国したかをお話しておきたいと思います。ほとんどの日本人の方々は、9〜10世紀頃に北欧の国々に住んでいたヴァイキングについて聞いたことがあると思います。彼らは好奇心旺盛な冒険者で、こう言っては大げさかもしれませんが、ヴァイキングの考え方というのは権威に対する反抗と言えるものでした。それは新しいことを思いつくことであり、試行錯誤をくりかえして発展させ、新しい解決法で暮らしを良くしていくことであり、こういったことは何世紀にもわたってスウェーデンでの

考え方に影響を及ぼしてきました。

もちろん、スウェーデンは戦いもたくさん経験しました。世界で最も多く戦争を経験した2国は、実はスウェーデンとデンマークです。一方でスウェーデンは現在200年以上も戦争をしていません。これは、敵同士でも友人になれる、ということの証拠ではないでしょうか。

スウェーデンのナショナルデーは6月6日ですが、なぜこの日にお祝いをするのか、スウェーデン人の誰もその理由を知りません。植民地化されたことがないので独立したこともなければ、どこから分離したこともないのです。ただ、グスタフ・ヴァーサ王が、我が国最初の王として就任したのが500年前のこの日、1523年のことでした。

スウェーデンは細長く、日本よりも地理的に大きいです。人口では日本の1億2600万人に対してスウェーデンは1千万人ですが、国土面積では日本はスウェーデンの3分の2ほどの大きさです。

スウェーデンは国民国家として発展し、17〜18世紀にかけてスウェーデン帝国へと成長しました。フィンランド、バルト海の国々、ドイツの北部、ポーランドとノルウェーも、スウェーデン帝国の時代にはスウェーデンの一部でした。

しかし、カール12世が1718年に殺害されると、スウェーデン帝国は衰退を始め、元の形に戻っていきました。スウェーデンにとっての最後の戦争は1814年、対ノルウェーの戦いでした。そしてそれ以降、私たちは平和を貫いています。200年前に始まったこの平和こそがスウェーデンの中立性の礎であり、外交と安全保障に関する考え方の根底にあるものです。

ところで、貧しい農業国だったスウェーデンはいかにして豊かになったのでしょうか。

スウェーデンでは税金が非常に高いということをご存じかと思いますが、こ

れは本当です。グスタフ・ヴァーサ王が人々への課税を始めました。もちろん戦争の目的がありました。教育のため、そして医療制度のためでもありました。私たちの歴史上、特にここ150年ほどは、教育と医療は非常に信頼されています。スウェーデンで高い税金が受け入れられているのは、その恩恵を受けていると国民が感じているからでしょう。

最も大きな出来事のひとつに、19世紀終わり頃の移民があります。スウェーデンには当時400万人しかいませんでしたが、そのうちの100万人が国を離れ、大部分の人がアメリカへ移住したのです。

なぜ移住したかという点、スウェーデンが極端に貧しかったからです。凶作もあって失業率はとても高く、人々は自由を求めて国を出ていきました。賢くてひらめきがあり、もっとも革新的で才能のある人々が国を離れてしまったのです。おわかりのように、これは大変な困難を引き起こしました。



and the new world
changes and
in a ch
secu

満席の会場。時にユーモアを交えながらの講演に、熱心にメモをとる方も多く見られました。講演後の質疑でも活発に意見が挙がり、注目度の高さが伺えました。



しかし同じ頃、さまざまな機関が設立され、投票権や労働者の権利を訴えるようになりました。保守的な国教会に対して声を上げるなど、人々は政府に圧力をかけはじめたのです。さらに、人々が移民として国を去ったことによって就業率は改善し、結果として失業はほとんどなくなりました。

スウェーデンは工業化を始めました。19世紀末から20世紀の初めにかけて設立され、現在も活動している大企業がいくつもあります。エリクソン、アトラスコプロ、テトラパック、ボルボ、スカニアといった企業は、もちろん時代に合わせ変化してきましたが、工業化と革新の大きな流れはこの時代に訪れました。

ここで大事なことは、スウェーデンが政治的に安定し、平和であったということです。政治的な発展は強固なものになり、民主化が後押しされました。そして労働者運動が力をつけ、同時に、戦争を避けることも成功したのです。

第二次世界大戦後、スウェーデンの産業はヨーロッパの再建を支えました。大戦中のスウェーデンの判断について議論はありますが、スウェーデンが中立を守ったことによって我々の産業は無傷ですみ、ヨーロッパの再建を支えることができましたのです。

では、スウェーデンはなぜそんなにイ

ノベータティブなのでしょうか。スウェーデン人が革新的なのは、いつでも働いてばかりではない、ワークライフバランスが非常にうまく、ということと関係があるのではないかと思います。

すばらしいアイディアや新しい発見というものは、デスクに向かっているときにはめったにやっこないものです。たいがいはいほかのことをしていて脳がリラックスしているときに、例えばジョギング中とか休暇中にひらめく、ということとはよくありますね。実り多い人生を送ることが、実は仕事上プラスになるのだ、ということだと思っています。男女平等であるとか、母親と父親の育児休暇、個人の所得、などの重要な問題が、このことを後押ししてきました。

安

全保障についてお話しします。非常に重要なことが1995年にすでに起こっていました。スウェーデンの欧州連合(EU)への加盟です。その段階でスウェーデンは中立ではなくなくなったわけですが、軍事的には非同盟を貫いてきました。

2年前に始まったロシアによる冷酷で全面的な侵攻は、たったひとつの選択肢NATO加盟へとスウェーデンを追い込みました。長い間我々がロシアに対して引いていた一線が、あのように暴



中央にNATOのストルテンベルグ事務総長、中央左にヴィクトリア皇太子、中央右はクリスティン首相。NATOの公式加盟国となった際の象徴的な一枚。
写真提供：スウェーデン大使館

力的であからさまな方法で破られてしまっては、軍事同盟に参加するという方法以外に選択の余地がなかったのです。

この決定は、いかに強大な国であつても、他の国に対して何かを強要すべきではないという意識によって行われまして。国の大小に関わらず、その国の安全保障はその国の責任によって行われなければなりません。私たちは、他の誰でもなく、自分たちで選ばなければならぬのです。そして、私たちの決定は加盟しようということだったのです。

この決断については、先ほど申し上げたように市民社会や多くの機関が政府を支持していることを考えると、国全体がNATOへの加盟に賛成していたと考えてよいのではないのでしょうか。加盟申請を行うことにスウェーデン国会の8つの政党全てが賛成し、また世論調査でも、ロシアによる侵攻が始まるとすぐに賛成に転じたスウェーデン国民が多かったことがわかっています。

こちらの写真(上)をご覧ください。これはヴィクトリア皇太子、スウェーデン政府、それから野党のリーダーたちが、スウェーデンがNATOの公式加盟国となった今年3月初めにブリュッセルへ行ったときのものです。スウェーデンの体制全体からの象徴的な価値があったことをお分かりいただけたと思います。

ここで付け加えておきたいのですが、スウェーデン政府と東京のスウェーデン大使館は、スウェーデンのNATO加盟申請に際して、ごく初期の段階から日本が強力にサポートしてくださったことに感謝をお伝えしたいと思います。加盟の実現を記念して行ったさやかな、かつ象徴的な大使館主催のセレモニーには、防衛大臣をはじめとした防衛に関するリーダーの方々に参加してくださいました。

NATOに加盟した今、スウェーデンは役割を果たさねばなりません。

もちろん、スウェーデンが受ける集団的防衛というのは大きな側面です。しかし重要なこととして、スウェーデンはNATOの協力関係において安全保障を提供する国でもあります。防衛費をGDPの2%まで倍増し、またスウェーデンの防衛産業は他のNATO諸国と協力し、その輸出も増やしています。

他のNATO諸国、また他の同盟国や友好国とともに、スウェーデンは領土の保全を尊重し、予測可能で安定した世界規模での枠組みを持つこと、そして他国によってそれが刺激され妨害されようとするときには、世界秩序が優位に立つよう最大限の努力をします。

さらに強調したいのですが、北欧地域は今、これまで以上に団結し、強力で、よ

り自由で安全になりました。フィンランド、スウェーデン、バルト諸国、デンマーク、ノルウェー、そしてアイスランド、全ての国がNATOに加盟しています。

スウェーデンのNATO加盟はプロセスの終わりではありません。安全保障と平和、防衛のための機関の積極的なメンバーとしてのスウェーデンの協力的体制は、これから始まるのです。

最

後に、世界とのネットワークや交流について触れたいと思います。

皆様ご存じのように、スウェーデンと日本の公式な外交関係が結ばれてから150年以上が経ちました。それよりも以前からふたつの国には交流があったこともご存じの方がいらっしゃると思います。江戸時代、17世紀から18世紀の外国人の入国が認められていなかった時代に、スウェーデン人科学者がオランダ人を装ってやってきたことがありました。

スウェーデン大使として5年前に赴任したとき、スウェーデンの首相にはつきりと言われたのは、私が大使としてとりかかるべき最も重要な事柄は、スウェー

ーデンの経済、スウェーデンの利益、そしてスウェーデンの雇用である、ということでした。もちろん2国の協力関係をより強固なものにすることもありますが、経済と雇用、この2つが核心でした。

しかし、ここ数年私が見てきたのは、まずパンデミックの発生です。科学的調査研究や開発だけでなく、医療に関するものと医療の技術的な支援や輸出についての協力が必要で、このようなことが非常に重要になりました。

世界秩序が変化して以来、日本は世界の機能のため、自由民主主義のために、ロシアに対抗する姿勢を明確に示すようになりました。このことはスウェーデンと日本を政治的に近づけることにもなりました。現在日本ではおよそ150万人のスウェーデン企業が活動しており、3万人以上の雇用を生んでいます。

またスウェーデンでの日本からの投資も増大しています。日立エナジー、コマツ、キャノン、日本製鉄、神戸製鋼、横浜ゴムといった数多くの日本企業が進出していて、何万人もの雇用を生みだしています。

科学・研究分野や大学同士の協力に加えて、文化的な分野の機関や個人、アーティスト、音楽家といった交流も両国間でさかんに行われています。

私は外交官として30年以上になりますが、考えてみればすべては個人に行き着くのだと思います。政府が協定に署名し、首相が訪問し、ハイレベルの代表団が行き来します。しかし結局のところは両国間の友好関係ですから、個々の関係や友情への対処が必要です。ですから、スウェーデン交流センターの活動や存在、これまでしてきたことというのは、両国の継続的な協力にとって非常に重要であると思います。

大使には着任地があり、離任するときもやってきます。私はこの5年間とても幸せな時を過ごし、あと1か月ほどしたら私はこの国を離れ、私の後任の大使が着任することになります。この150年間で初めての、女性の駐日スウェーデン大使となられるこの方のことを、私はとても誇りに、また嬉しく思います。

ご清聴ありがとうございました。

ペールエリック・ヘーグベリ
駐日スウェーデン大使
Ambassador Pererik Högberg

1967年生まれ。在南アフリカスウェーデン大使館一等書記官、スウェーデン芸術評議会国際部課長、スウェーデン外務省アフリカ局局長などを歴任し、2016年より駐ベトナム大使を務めたのち、2019年より駐日スウェーデン大使。



「令和6年度 北海きたえーるこどもの日無料開放」



北海道立総合体育センター
HOKKAIDO PREFECTURAL SPORTS CENTER

クッブ体験会を開催しました！

2024年5月5日(日) 主催／公益財団法人北海道スポーツ協会



写真：北海きたえーる

「北海きたえーるこどもの日無料開放」イベントにおいて、スウェーデンの屋外ゲーム「クッブ」を体験していただきました。クッブはバイキング時代から楽しまれていたと言われるほど歴史は長く、大人も子供も一緒に楽しめるゲームです。ルールは単純で、木の棒(カストピン)で相手のブロック(クッブ)を倒し、最後にキングを倒したほうが勝者となります。

参加した多くの子供たちのほとんどが初体験で、最初はコツをつかめず苦戦していましたが、相手のクッブに当たりますと大きな歓声上がり、大いに盛り上がりました。よほど楽しかったのか何度もチャレンジするお子様もいました。もっとクッブを知ってもらうため、このような機会があれば今後も積極的に参加して認知度を上げていきたいと思います。



講師
トーベ・ケネスコグ



楽しくスウェーデン語を勉強しませんか？

秋に開催予定！

対象 初心者 経験者
料金 ￥14,000 (税込) ￥18,000 (税込)

・札幌駅周辺
・講座は全10回
・日時は決まり次第SNSで発表いたします。

✉ info@swedishcenter.or.jp
☎ 0133-26-2360(火曜休館)



Välkommen!

ペーパーウェイト制作体験



毎月第2土曜日に開催中！

(10:00~12:30 / 30分毎/1日につき定員6名)

場所 スウェーデン交流センター
ガラス工芸工房

料金 ￥2,500 (税込)

対象 小学生以上 (小学生は保護者の同伴が必要です)
(※大人だけでもご参加いただけます！)

・ご予約は希望日の1週間前までに、下記までご連絡ください。
スタッフが空き状況をご案内いたします。
・お支払いは当日承ります。(現金・カード・QRコード決済対応)
・キャンセルの場合は当日でも必ずご連絡をお願いします。

✉ info@swedishcenter.or.jp
☎ 0133-26-2360(火曜休館)



ティブル TRANSSIBIRISKA

Live&Talk@スウェーデン交流センター

シビルスカ

4/11

♪生演奏に触れて♪

DRINK「EMALL」中島氏の主催により、ダーラナ県ティブレ村から、ジブシーバンド「ティブレ・トランシビルスカ」が来日。日本各地での公演の合間にスウェーデン交流センターでもコンサートを行いました。東欧やバルカン諸国の音楽を融合させた彼らの楽曲は、世界的にも高い評価を得ています。今回は、演奏の間にトークを織り交ぜる「ライブ&トーク」で進行し、他の会場とはひと味違う内容でした。演奏では、日本でもよく知られた曲を披露して大いに盛り上がり、トークでは、レクサンド出身のメンバーが、幼い頃に当別町の方と文通していたことに触れ、「今回初めて当別町を訪れることができて嬉しい」という心温まるエピソードも。予定した席数を大きく超える70人以上の観客が集まり、限られたひと時に酔いしれました。



ザリガニパーティー 開催決定！

ザリガニって日本ではあまり食べませんが、実はロブスターとザリガニは生物学の分類上は同じなのです！
食べたことのある人も初めてという方も、ぜひご賞味ください！

日時 8月25日(日) 12:00～14:00(雨天決行)

場所 スウェーデン交流センター 中庭

定員 50名(要予約)

参加費 3,300円(賛助会員: 2,750円)

お問い合わせは
info@swedishcenter.or.jp 0133-26-2360



写真: Anna Hållams/imagebank.sweden.se

なぜスウェーデンの若者は 余裕があり自由なのか

林 正樹

2

012年にスウェーデンのゴットランド島のウイスビーに仕事を得て移り住んだ僕は、11年間、そこで暮らし、今年、早期リタイヤして帰国しました。仕事場はウプサラ大学キャンパスゴットランドのゲームデザイン学科というところでした。ゲームの発案からリリースまで総合的なゲーム製作を教えるところでした。ただ僕は、もっぱら、プログラミングとかコンピュータ・グラフィックスとかテクニカルなことを教えていました。

スウェーデンに11年もあると、語ることはいくらかもあるのですが、ここでは本職の大学での仕事において、学生たちの教育を通して見て来たこと、感じたこと、考えたこととお話しようと思います。



ウイスビーの美しい街並み Photo: Rodrigo Rivas Ruiz/imagebank.sweden.se

ス

ウエーデンの大学で働いて、いちばん最初に感じたのが、ボス、研究員、教員、学生までの関係すべてがフラットなことでした。学生も教員もすべてファーストネームで呼び合っているということはよく知られています。が、学生が学長の部屋へずかずか入って議論を始めることもあるし、ボスが教員に、教員が学生になにかを一方的に命令して遂行させる、ということはなく、すべて話し合いとその結果のコンセンサスを経てなされていました。

僕がゲーム学科にいた、ということも大きいでしょうが、学生たちは余裕たっぷり、いつ卒業しても、いつ就職しても、いつ起業しても、いつ復学しても平気、という感じに見えました。ただ、そんな風なのでいくらかレイジーにも見えましたけど。日本のように新卒一括採用などという異様なシステムはまったく無いので、みな、余裕を持って社会に出るタイミングを待っている感じです。そんなわけなので、大学では学生の就職の面倒は見ませんでした。彼らは勝手に、就職起業します。

で

は、なんでこんなに自由で余裕のある学生が生まれるのでしょうか。これはスウェーデン人から直接聞いた話ですが、30年ほど前、日本と同じく

いわゆる「ゆとり教育」が施行されたそうです。そこでは子供の自主性を完全尊重し、決して無理に方向付けをせず、本人の行こうとしている方向の先を地ならししてあげる方法だったそうです（彼はカーリング教育と称していました）。で、その結果、すごく「自信满满」な若者が増えたようです。一方、これは日本と同じく、「学力」の方は落ちました。しかし、その代わりイノベーション力は上がり、それがスウェーデンの世界での競争力の強さを支えているのでしょう。

スウェーデンの彼ら若者には、将来に対する強迫観念的不安が、きれいさっぱり無いように見えます。これは、社会のセーフティネットがしっかりしていることと、あとは受験戦争も塾もなく、教育費もタダなのが大きいと思います。だいたい、学生に限らず、スウェーデン人は、僕から見ると、誰も将来や老後の心配をしていないように見えました。

一方、日本に目を転ずると、上述のスウェーデン学生とことごとく逆を行っているように見えてしまうのが悲しいところ。もちろん、日本にもそういったのは方向性のことで、スウェーデンが向かっている方向と日本が向かっている方向が逆を向いているという意味です。実際のその社会の中の人たちは、

その両方向の間をグラデーションをなして分布しています。

ともかく、日本では、イノベーションの奨励、グローバル人材の育成などが言われ、それを目指していますが、けっこう空回りしているのが現状ではありませんか。残念ながら、スウェーデンこそ、それをきれいに実現している国、と認めざるを得ません。逆に、日本はお題目は掲げますが、実際はことごとくそれに反することをしているように見えます。

たとえば、スウェーデンと日本はゆとり教育を同じころに始めましたが、日本では、若者の学力が落ちて、社会に出てすぐ使えない学生が増えたのを見て、慌てて方向転換しましたね？ スウェーデンでは、むしろ、ゆとり教育などというものをやったら論理必然的にこうなる、と分



開放的なウプサラ大学キャンパス Photo : Cecilia Larsson Lantz/Imagebank.sweden.se

かっていて、学力低下をやり過ぎたように見えます。スウェーデンでは、なにかにつけ、科学的であり論理的であることが基盤としてしっかりと根付いているのでしょうか。

日本の学生を見ると、数はそう多くないですが、イノベティブな若者は確実にいます。彼らをつましく導けないのは社会の責任で、残念に思います。今後は円安も手伝って、そういう若者たちは海外へ逃げちゃうかもしれませんね。

と ところで、僕は以上のように、進んだスウェーデンと遅れた日本、という構図で語っているものの（というのは、見たままを説明したからです）、この

事態についてちょっと変わった考え方をしています。それは、いま現在では世界が西洋文明、とくに科学によって作られたフレームワークを基盤としていて、日本もその上で勝負しているわけで、強固なフレームワークを先に作りそれを世界に打ち立ててしまった西洋に、当面、非西洋な国はなかなかかなわない、という考え方です。

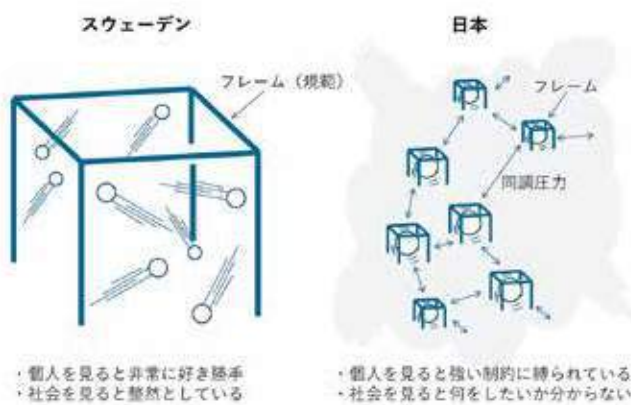
ずいぶん悲観したように聞こえるかもしれませんが、こうです。社会が先にあってそこで科学を使うんじゃない、科学が先にあってそれをフレームワークとして社会が出来上がっている、とい

う逆転した発想です。この件については限られた紙面ではご説明は無理なので、別の機会にしましょう。

最 後に、ネイティブ日本人としてスウェーデンに11年住んだ僕が痛

感した、スウェーデンと日本での「社会と個人の在り方」の圧倒的な違いについて簡単に触れて終わります。

図示しました。左のスウェーデンでは、社会には巨大で強固なフレームがあった、その広い内部で個人は自由に行動しモビリティは最大です。一方、日本にはそのフレームは個々人の中にあり、フレームが小さいせいで自由度が厳しく制



寄稿者紹介

林 正樹 はやし まさき
Hayashi, Masaki



1959年生まれ。東京工業大学の大学院卒業後、NHK放送技術研究所にて番組記述言語 TVML などの研究開発を行う。2006年にNHKを自主退職、セガサミーメディア(株)などでTVMLの事業化を推進。その後、2012年スウェーデンのウプサラ大学ゲームデザイン学科の准教授に就任。工学博士。

限されています。そして社会としてみると、一体どこに向かって何をしようとしているかわかりません。実は日本ではこの方向を決めるのは「お上」なのですが、そのお上(政治家・官僚)が重度に西洋文明に毒されており、元来の日本と整合が取れず、混乱しているからだと思います。

以上、説明が簡潔過ぎてかえって誤解を生んでしまったかもしれませんが、こういう社会と個人の関係の違いが、前半でご紹介したスウェーデンと日本の学生の自由度やイノベーション度やグローバル度の圧倒的な違いの底辺にあることは、間違いないと僕は考えています。



在札幌スウェーデン名誉領事館

Honorary Consulate of Sweden in Sapporo

2023年3月、札幌にスウェーデン名誉領事館が開設されました。

今回、名誉領事に就任した中野省吾氏（デラバル株式会社代表取締役社長）にインタビューを行い、名誉領事館の役割や設立の背景、提供されるサービス、今後の目標などについて伺いました。

名誉領事館とは？

名誉領事館は、スウェーデン大使館の出先機関として機能し、地域に在住しているスウェーデンの方、もしくは来日したスウェーデンの方をサポートすることを目的としています。特に緊急時において、大使館の領事業務に関する手続きを支援します。また、両国間の経済、文化、教育の交流の促進も重要な役割の一つです。



提供されるサービス

名誉領事館では、主に6つのサービスをメインに提供しています。

① パスポート自体の発行や更新などの手続きそのものは大使館で行いますが、札幌で受け取りたい方は名誉領事館で受けとることができます。

② 日本に居住する上で必要な書類の発行やサイン、印鑑の押印を行います。また、居住証明の発行に際しては面談を通じて本人確認を行います。

③ スウェーデン国籍をお持ちで、年金受給資格を持つスウェーデン人の生存確認を、名誉領事館にて対面で行います。面談を通じて資格確認をサポートします。

④ スウェーデンと日本、特に北海道や札幌のコネクションを強化し、スウェーデン交流センターなど国際交流団体との橋渡し役を務めます。

⑤ スウェーデンで選挙が行われる際には、在札幌名誉領事館でも投票所を開設します。東京からスウェーデン大使館職員も来訪し、厳正な投票とプライバシーの確保がなされます。

⑥ スウェーデンからの旅行者がトラブルに巻き込まれた際のサポートを行います。例えば、警察に拘留された場合の身元引受けなどです。

札幌に設立された理由

日本には神戸と福岡にもスウェーデン名誉領事館がありますが、実は以前札幌にもありました。スウェーデンに本社を構える企業である当社（デラバル株式会社）が2020年に東京から札幌に本社を移転した際、スウェーデンと北海道の交流を促進してもらいたいという駐日スウェーデン大使からの強い要請があり、一時閉鎖状態となっていた在札幌スウェーデン名誉領事館が再開されることになりました。

今後の目標

現在は名誉領事館の設立から日が浅いため、まだスウェーデン人コミュニティとの関係を構築している最中ですが、今後いろいろなイベントや会合に積極的に参加し、関係を深めていきたいと考えています。また、パスポート更新などの手続きがスムーズに行われるようサポートするだけでなく、さまざまな困りごとにも対応し、スウェーデンと日本のビジネスや人的交流の促進を通じて、両国の橋渡し役を果たしていきたいと考えています。札幌にお越しの際は、いつでも気軽に名誉領事館へ立ち寄っていただき、交流の場としても利用していただければと思います。